

令和3年度 第2回施設関係者評価委員会

清水認定こども園
2022年3月9日(水)

1. 参加者紹介

高槻市立清水小学校 校長	高畑亜津子
清水コミュニティセンター前館長	清水孝道
高槻市立津之江幼稚園 園長	村田祥代
清水地区コミュニティ協議会会長	山村邦子
清水認定こども園 保護者会代表	赤山あかね
清水認定こども園 園長	前田敦子
清水認定こども園 幼小連携	檜垣由里
清水認定こども園 主幹保育教諭	勝見勇志
清水認定こども園 主幹保育教諭	白井裕加

2. 公開保育・園見学⇒公開保育については別紙『公開保育指導案』参照
3. 公開保育振り返り、意見交換
4. R3振り返り・R4年度事業計画案の説明
園の自己評価について

【議事録】

◎公開保育担当保育教諭（勝見）より、取り組みについて

・昨年、年中で入園してきた子どもたちなので個々の性格や特徴は入園してからでないと分からなかった。園では基本、ルーム（異年齢クラス）で過ごしているが週に1回の年長活動で年長だから出来ることや就学に向けてを意識して取り組んできた。

保育者が考えを提供するのではなく自分たちで意見を出し合い、考えて主体的に行動できることを大切にしてきた。中には自分の思いや意見を口に出して言える子もいれば口に出せない子もいるため、造形展では10人で一つのものづくりをした。そういう活動を繰り返すことにより今回は自分の意見を言い、また相手の意見に耳を傾けることができていたことに成長を感じた。

◎幼小連携担当（檜垣）より

・短時間、月単位で4ルームを担当し子どもの育ちをみている。年長児に対しては就学に向けて出来る範囲でサポートしている。

子どもたちが個々の個性を伸ばして自ら主体的に動きのびのびと大きくなっているように感じる。

言葉が歌の歌詞にあることに気づいたり、自然と歌いだしたりなど子どもが主体的に動く環境設定ができていたので子どもたちは自分の意見が物おしせずと言えると思う。

◎清水小学校 高畑校長先生

質問) 卒園式の言葉についての意見はどのような事を予想していたか。

勝負) 言葉で伝えるか書いて伝えるかを予想していて歌いだしたのは予想外だった。

・小学校でも卒業式にしたいことを問かけると前年に見ていたことをやりたがる。園では担任が日々していた積み重ねが歌であり歌がウエイトを占めていたから歌いだしたと考えられる。つくることや書くことをたくさんしていたらそうになっていたように思う。

◎高槻市立津之江幼稚園 村田園長先生

・卒園式で伝える言葉をオリジナルの歌にして歌うことを楽しみにしたい。(保護者として)

どの場面も子どもが主体で行動していて「ねらい」を意識した活動をしていた。どの子の気持ちも否定せず受け止めてくれるので子どもが安心しているのがわかる。一人ひとりを大切にし個々がもつ様々な気持ちや思いも受け止めていた。

子どもたちはそれぞれに発達の違いがあるが「ねらい」に挙げていることを皆が納得して決定していくためには見極めが難しいと感じる。

◎清水認定こども園 保護者会代表 赤山様

・子どもを園に通わせていて、考える力を与えてくれていると感じている。時間をかけて子どもと向き合っていることを知った。園見学でも他園と比べると各ルーム整理整頓されていて、それは、一人ひとりに目が行き届いている事に繋がっているので保護者としては安心して子どもを任せられる。

◎清水コミュニティーセンター前館長 清水様

・職員の方々の熱心さを感じた。今の世の中は暗いニュースばかりだが、子どもたちが明るく元気な姿を見せてくれたので癒された。

◎清水地区コミュニティー協議会会長 山村様

・自分が子育てしている時は子どもに否定する言葉ばかり言っていた。今回の保育では子どもの主張に否定などせずしっかりと耳を傾け、意見を傾聴し、常に子ども中心であることがわかった。

この法人の園は子どもに対する向き合い方が家族同様の扱いで楽しい雰囲気が見られるよう。これからも子ども中心に頑張ってもらいたい。

◎園長より事業計画案、園の自己評価、総評について

・園の方針、理念を説明をする。子どもの主体性、子どもとともに活動を進めるのを中心に子ども同士で意見を交わし合いながら他人の意見も聞き入れる。保育者が子どもの気持ちに寄り添いながら子どもに考える力や人の気持ちを知る子を育てている。自分の思いや意見を考え、その考えをまとめて伝えることの積み重ねが大人になっても根付いてくれたらという思いがある。自分たちの力、苦手、得意も考えながら相手の気持ちも知ることで成長して欲しい。

事業計画案の説明の補足としてコロナウイルス感染症が収まれば地域交流を進めていきたい。最近地域の方に竹馬を作ってもらった機会を得た。園庭に畑もつくるので畑についても地域の方の助けをお借りするなど様々な方の力を借りながら地域に根付いた園にしたい。

地域活動については園の認識を高めるために未就園児を迎え、親子教室や預りのプレ保育などを行

い集客に力を入れていく。移管を受けた園のため年数の高い職員数が多く中堅が少ないため若手職員の良さ・意欲・持っている力を引き出せるよう園内で他の職員の保育運営を見学し学びを深めるための公開保育を実施するなどして育成にも力を加えていく。

男性職員を中心にしみふれ会（清水認定こども園 ふれあいの会）と称し、敢えて男性保護者に声掛けをして子どものため、園のため、地域のために「何かできることをできる時にできる者がする」という会を発足した。

- ・自己評価について補足説明

各項目の中で「子育ての支援」については未就園児の親子教室を数回行ったがコロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされた。また、保護者への言葉がけとして送迎時の短い時間でも対話ができていた。

「職員の資質向上」については、子どもたちは真っ白な状態で入園してきている。知らせることは丁寧に知らせ、主体的に過ごせる環境設定が大切であると考えている。そのためには個々の職員の資質をあげる必要があるため来年度に向けて課題にあげて取り組んでいきたい。